



12月号 発行所 全日本仏教会 東京都中央区築地3-15-1 (本願寺内) 振替東京37600
発行人 伊藤勝淳 編集人 柳 了堅 電話 (542) 2969-8666 (541) 0313

仏教徒のねがい

1. 仏に帰依し、仏の教えに帰依し、仏の教えをあおぐ人々に帰依して正しく明るく生きぬく人間となります。
2. 仏の智慧と慈悲に照らされて、さとりを求め、真実の自己にめぐめると共に、多くの人々に仏のおしえを伝えます。
3. みずから戒めを守り、行ないを反省し、生かされている身の幸せに気づいて、あらゆる恵みに感謝し、教智と愛情をもって明るい生活を築きます。
4. みずからとらわれと偏見をすてて、真実を正しく見、創造力を養い、個性を伸ばし、よろこんで世のためにつくして、自他平等の幸せな社会を作ります。

(全日本仏教会制定)

私の主張

宗教と政治

狩野 獲麟

(全仏政治専門委員長)



これまで宗教と政治は遠くはなれたところにあることが正しいあり方のように思われていた。

然し現代の様相はそれでは不安になってきた。それは大きな忘れものであることに気がつきはじめるからである。

原子力エネルギーの過剰な発達で人間は互に能力優先の欲望からみづからの手で人間社会を砂漠化し連帯感を喪失し無宗教が宗教で

あるかのような錯覚に陥入っている。

ガンジーは宗教のない政治はナンセンスだと云ったけれども最近日本の政治家は与野党を通じて無秩序であり、背徳漢ばかりで道義的羞恥心などかけらほどもない、無宗教である証拠である。

もっとも現代には誤った特定の宗教をもって政治を壟断しようとする危険な宗教団体もある。そのため、政教分離の鉄則は犯してはならない。しかし政治に志す人の第一の条件は「悪に惑わず、善に向って勇敢」という大志を持つて

いることであろう、これはそのまま神に通じ、仏の慈悲に通じる信念であろう。政治家は普通人より強烈な道義心がある筈だ。それなのに今日多くの政治家はそれを持っていない、そこに綱紀紊乱の原因がある。

それどころか今日多くの政治家は無宗教をもって誇りとさえ考えているものがある。議会制民主主義は暴力で勝敗を決する戦場であると云っている、宗教はこれを眠らせる阿片だと云っている。

今や政界を覆っている黒い霧はおそろしいけれども、赤い霧の方はなおさらおそろしい。衆と共に苦しみ、衆と共に楽しむという仏教を奉ずる仏教徒ならば、今の政治を黙視することは出来ないであろう。現代を憂うる真の仏教徒であるならば、百万の経典を読むことよりも百の説教をすることより、日本の政治を浄化する運動に挺身した方がはるかに生きた御利益となるであろう。

金沢の大衆仏教講座

全仏文化局は、時局に対処する仏教徒のあり方の研修について、これまでの講習会形式をきりかえ、大衆仏教講座として北陸地方で初めての催しを開いた。講座はさる十月二十三、四の両日金沢市横安江町東別院内金沢幼稚園講堂で催され三百余人の参加者があった。講師は大谷光紹師、笠原一男氏、友松円諦師、戸頃重基師、大森曹玄師など。さいごに大谷、友松両師によって期待される人間像、仏教の人間像などについてパネルディスカッションが行われ、参加者に大きな感動をあたえた。なおこの講習会開催について地元石川県仏教会(会長放一岳師)が献身的な世話をされ各方面から感謝されている。

岡一本一報告

破邪顕正、正法興隆のため全国的活躍している作家の岡本薫氏から、福岡県を中心として島根、佐賀、熊本、大分各県を巡回講演した模様についてくわしく報告があった。要旨つぎのとおり。

(1) 今回の伝道で特に強調した点は「宗教と憲法」および宗教法人法(第八十一条)について、創価学会対策として裁判所へ陳情することに關するものである。憲法第十二、十三条違反と宗教法人法八十一条違反があれば裁判所は違反者に解散を命じ得るので、その職権の発動を促すために、福岡県仏教会は陳情することになった。

陳情書の写しは各県仏、各宗派、および神基新興などの教団にも送り、同様の陳情を促し、裁判所を刺激する。そしてできれば全仏から提訴する。

憲法第十二条は、宗教は他から侵されてもいけないし、他を侵してもいけないということになっている。邪教ということとは他の宗教を侵害すること、宗教権の濫用である。このような宗教は四つの道徳、法律を軽視する思想をもち、教育基本法にも違反し、宗教法人法第二条の「教化育成を主たる目的とする」とある宗教団体の目的に違反している。

(2)福岡県仏(会長二十二鉄鎧師)は十力所において統一的な破邪顕正の講演会を開き、約四千人を

動員した。三月には北九州市仏(一、五〇〇人)五月には田川市仏(八〇〇人)でもこれを開き、それらを合せると、本年中六千数百人を動員したことになる。この活動は注目に価する。

年賀の名刺広告

全日本仏教会は恒例により「全仏通信」一月号に年賀の名刺交換広告を掲載することにしました。たくさんのご尊名を頂戴したく、どうか、ふるってご協力くださいますようお願いいたします。

掲載料 団体 一口につき三、〇〇〇円
(広告法第四四、五〇〇円)
個人 一口につき一、〇〇〇円
(同法第四四、五〇〇円)
ノ切 十二月十日(厳守)

全日本仏教会

世界を結ぶ仏教

世界仏教徒大会に50余人

仏基親善使節団も訪欧



「世界のあらゆる宗教と提携しよう」ということは、われら仏徒の悲願である。毎年の全日本仏教徒大会でもこれが叫ばれる。全仏も大会の総意に沿って、いろいろ事業を計画し、実行し、着々とその成果をあげている。ここに仏教の世界交流について、最近の主もなニュースを集録してみた。

記念品を嘉納されたのち団員のひとりひとりと握手をされるローマ教皇

訪欧して仏基親善

このたび「訪欧仏基親善使節団」が全仏から派遣されたのも、仏教の世界の交流の事業のうちのひとつである。さる十月十九日、全仏会長のメッセージを携えた一行二十一人は羽田を出発、イギリス、フランス、ベルギー、オランダ、ドイツ、スイスなどの各主要都市の保育施設を視察、イタリアでは十七世紀以来の大洪水に遭遇したが、うまくこれを避けて、十一月五日夕方ローマ入り。あくる六日は市内観光、正午にはバチカン宮殿

前の大広場におりから日曜礼拝に集った約十万人の人と一緒に、教皇の祝福を受けた。あけて七日、二十一人の団員は旅のつかれも忘れ、決められた十時に教皇庁に伺候、十一時四十分から三十分間、ローマ教皇に謁見、メッセージを奉呈し、記念品を贈った。教皇は答札のあいさつのうちで、ベトナムに大使を送り、現在クリスマス停戦を働らきかけていること、キリスト教と仏教は強く提携し、これら諸問題の解決に信仰の立場から努力しなければならぬこと、本日皆様の訪問を心からうれしく思う。どうぞ帰国後は

日本の国民一人一人にこの旨を伝えて世界平和の実現に共に立上ってほしいことなどを力説された。二十一人の団員は仏基親善使節としては初めての任務を完遂した喜びを胸に、各人それぞれの立場で世界平和と仏教の興隆のために努力することを誓った。一行はつぎの人たちで十二月九日無事に帰国した。

荒川ミネコ 上田俊喜 甲斐久生
五島宗宣 桝彰雄 佐藤行信 寺田康順
服部賢準 菱川慧昭 菱川貞子 土方保道
土川寛峰 平岡定海 藤沢由徳 古川一雄
三浦称随 三谷碩広 鷲尾晋隆 渡辺英雄
谷村ちよ 伊東堅純

クワン師の手紙

ベトナム戦争に対するわが国民の関心は強いものがあるが、同じ仏陀の教を奉ずる日本の仏教徒として南といわず北といわず、一日もはやく和平の日の早やからんことをねがっている。

さる八月、もっとも混乱していた最中に、戦乱を憂い、ベトナム仏教徒の慰問と救援のための切ない気持を抱いて現地を訪れた、臨済宗天竜寺派師家大森曹玄師は、百日の断食行を行っていたティ・クワン師を見舞った。そのときクワン師から、日ごろからの日本の仏教徒の物心両面にわたる好意に対し、感謝の意をこめて別項のメッセージを全日本仏教会にあてて託された。

メッセー 仏教歴二五〇一年一九六六年八月一六日。サイゴンで日本

の国民と仏教徒のみなさまに、私はこの手紙を書いてお送りします。

二十四時間前にみなさんが、三〇〇万の日本人戦没者の英霊の冥福を祈られたことを知り、私もみなさんとともに戦争によって亡くなられたかたがたに、心からの哀悼の意を捧げ合掌します。

私はみなさんが、私に対し無期限の断食を止め、養生のため日本を訪問するようには勧めてくださっておりますことに深く感謝申し上げます。

いま世界中で、もっとも大きな苦しみを受けておりますのは、ひとりベトナム民族だけでありませう。国土の分割、戦争、共産主義、植民地主義などが一緒に

なって、ベトナム民族と私たちの信仰に非常な困難をもたらしております。この民族の苦悩は、十九世紀末から第二次大戦を通じ、絶えることがなく現在まで続き、さらにこののちいつ終るかも判らないのであります。

私たちの民族はいつも後進国の状態にとどまってきましたが、民族に苦しみを与えているこのような、分割、戦争など

万行大学へ大蔵経

南ベトナムのサイゴンにある万行大学へ大蔵経を寄贈してほしいと外務省から全仏に依頼があり、政府代表としてベトナムを慰問した大谷よし雄参議院議員と同行した臨

ベトナム救援続く

濟宗の森大曹玄、大谷派の日野照護全仏文化局長の両師らが中心となってあつせんした結果、大蔵経をちかく寄贈することになった。仏教の經典や書籍にめぐまれない同国の仏教徒にとってたいへんな喜びであろう。

化導院へ救援金

全日本仏教会のベトナム難民救援運動は、各方面のご理解を得て救援活動の実

のいろいろの原因は、私たちの進歩により一層の困難を加えています。しかも私たちの国土は新しい大きな戦争の危険にさらされており、一刻のたえまもなく国土は破壊され、国民は生命を失っております。

信仰の問題を含め、ベトナム民族の苦悩に思いをいたしますとき、ベトナムの平和と繁栄に協力しようとしておられる

行段階に入っているが、さきほど全亜協

会所賀理事長に三十万円を託して救いの手をさし伸べたことに對し、同理事長からつぎのような報告があつた。

過日仏教化導院の再開を機に、タムチヤウ師に面談、孤兒院に薬品(十万円)をこっそり

ました。政軍との對

立のため、全く薬も器械もなく、子供たちも病気に苦しんでいるので、今後の援助が必要です。

福島県仏の行事

福島県仏教会(会長吉岡棟一師)は、かねてからベトナム難民救援金の募金を行っていたが、さる十一月十六日午前十一時から、郡山市如宝寺(豊山派)で、

WFBに出席した代表団の帰国

タイのチエンマイで開られた青の山田一真、猪俣興一両師は十九日午後八時四十分それぞれ帰国した。代表団の報告会は近日開催の予定である。

みなさま方のご好意に感激し、その成果を期待するものであります。現在私たちは、軍事独裁制度のもとにおかれていましてのでみなさんのご好意をより深く感ずるものであります。

みなさんがたのご好意は私にとって終生忘れることのできないものであり心から感激申し上げます。

ティッ・テイ・クワン

ベトナム戦争の犠牲者の法要と、救援金贈呈式が参列者五百名を迎え厳肅に勤修された。全仏からは黒田事務総長が、ベトナム留学生(慶応大学)陳徳江君を連れて出席し、救援金の贈呈を受けた。本年一月からタイで僧院生活をし、さる六

月帰国の途中ベトナムに立ちより、ベトナム僧と生活をともにして帰った、曹洞宗の石附周行師が招かれ、講演をして参列者に深い感銘を与えた。

全国教誨師大会

第十一回全国教誨師大会は、さる十一月八、九の両日、名古屋市公会堂で全国の教誨師代表約五〇人が参集して開催。石井法務大臣をはじめ法務省幹部、愛知県知事などのほか多数の来賓、大谷光紹総裁、日宗連西村理事長なども出席、法務大臣表彰、日宗連の表彰があつた。

記念講演は西谷啓次大谷大学教授 大阪大学教授の両氏。第二日は各刑務所所属教誨師の体験を通じてのシンポジウムがひらかれた。

沖繩に宗教法人会

沖繩仏教連合会では、役員任期満了により田原唯信師(大谷派)が会長に就任した。明年から日本の宗教法人法にならぬ琉球政府は新しく宗教法人法施行の準備がすすめられ、関係法規の送附の依頼をうけた全仏では、さっそく資料を送った。

訂正 第一二〇号十一月号の仏婦事務

局移転の記事のうち東京都世田谷区桜上水四一九としたのは誤りで東京都世田谷区桜上水です。また第六ページの全仏手帳定価一部二二〇円とあるのは、定価一部二〇〇円の誤り。



